



株式会社
テリロジーホールディングス

2023年3月期第3四半期 決算短信補足説明資料

東証スタンダード | 証券コード：5133 |

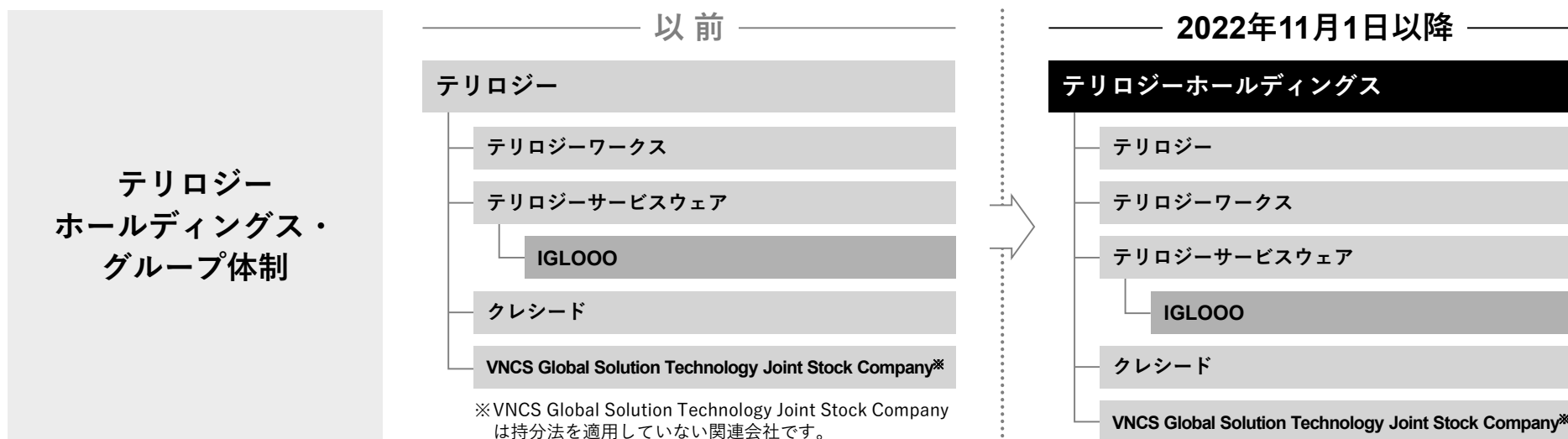
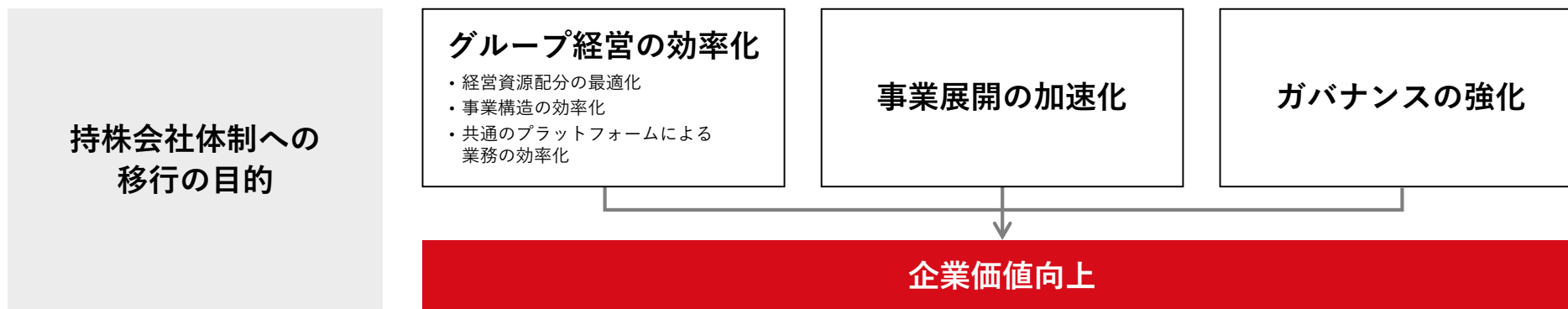
2023年2月10日

A short, thick black diagonal line located in the upper left quadrant of the page.

テリロジーグループ紹介

A short, thick red diagonal line located in the lower right quadrant of the page.

当社単独の本株式移転により、2022年11月1日を効力発生日として
持株会社テリロジーホールディングスを設立し、株式会社テリロジーを完全子会社化



IPネットワーク関連製品やネットワークセキュリティ分野の最先端製品及びソリューションを提供するITソリューションプロバイダー

社名	株式会社テリロジーホールディングス
設立年月日	2022年11月1日（株式会社テリロジー 1989年7月14日設立）
資本金	450,000千円
代表者	代表取締役社長 阿部 昭彦
グループ社員数	229名（2022年12月末現在）
所在地	東京都千代田区九段北1丁目13番5号
市場区分	東証スタンダード市場
証券コード	5133
業種別分類	情報・通信業
主な株主構成	役員、社員持株会、兼松エレクトロニクス株式会社ほか
取引銀行	三井住友銀行、みずほ銀行



テリロジーホールディングス本社

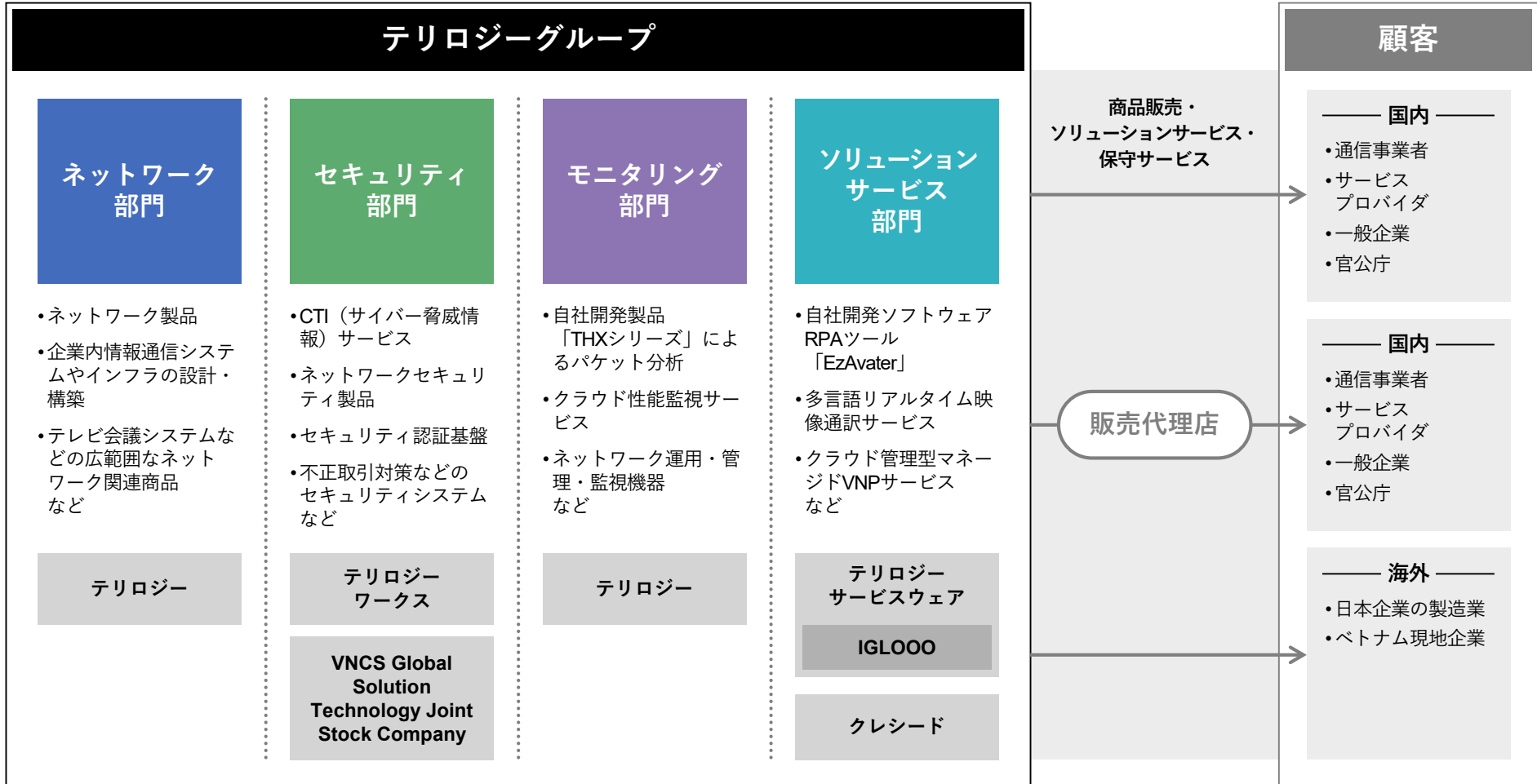


Securities code : 5133



IS 97125 / ISO27001
EMS 513188 / ISO14001

製品・サービス別に「ネットワーク」「セキュリティ」「モニタリング」「ソリューションサービス」の4部門で事業活動を展開



A short, thick black diagonal line pointing downwards and to the right, located in the upper left quadrant of the slide.

2023年3月期第3四半期 業績

A short, thick red diagonal line pointing downwards and to the right, located in the lower right quadrant of the slide.

2023年3月期 第3四半期 決算概要

- セキュリティ需要の高まりから受注活動は堅調に推移し、売上高は増加

売上高

3,804百万円

(前年同期比：4.8%増)

受注高

3,899百万円

(前年同期比：14.7%減)

受注残高

1,984百万円

(前年同期比：0.5%減)

- 人件費の増加や資本業務提携・組織再編に伴う諸費用の計上などにより、営業利益は減少

営業利益

△69百万円

(前年同期比：125.2%減)

トピックス

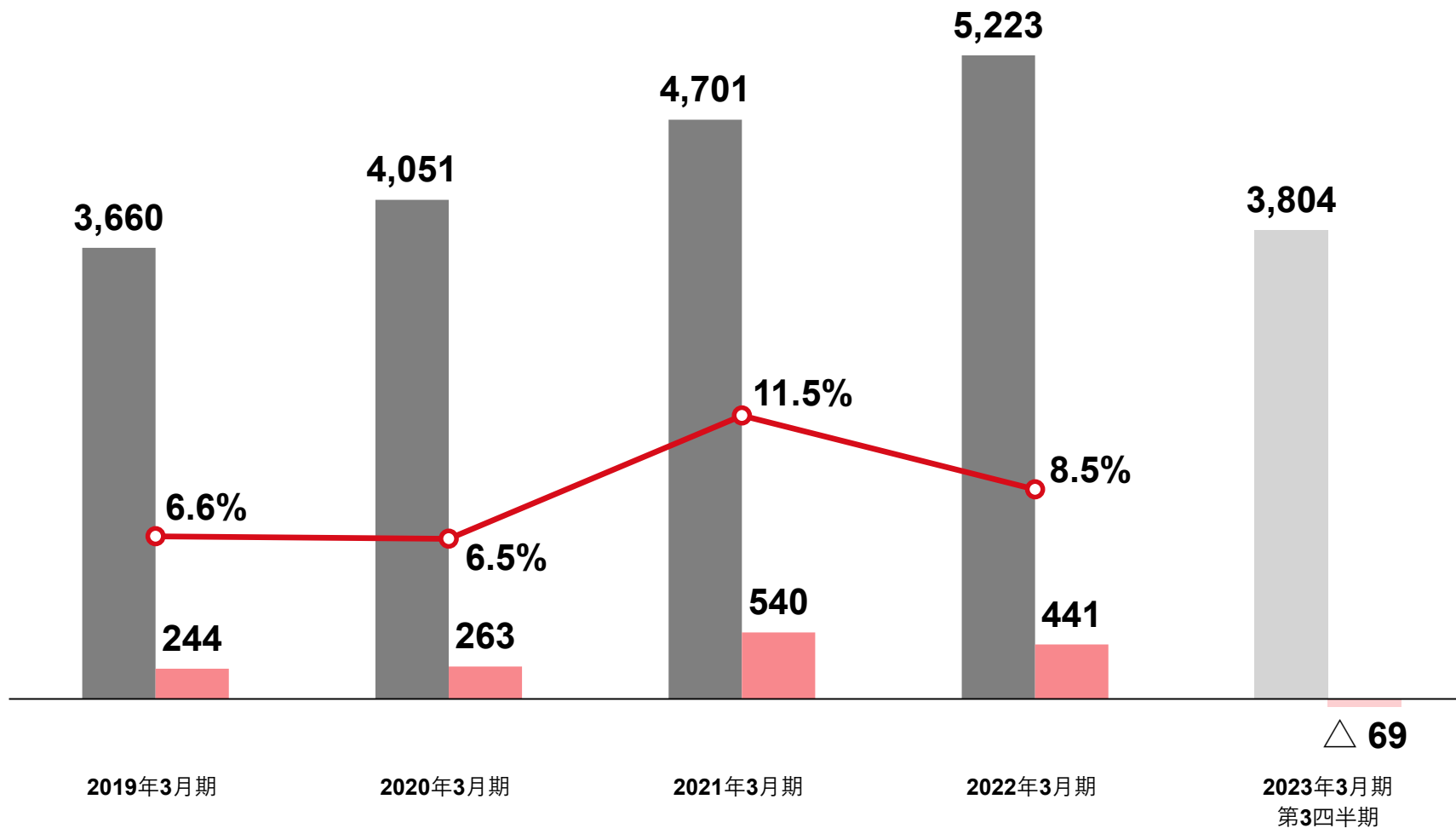
- 急激な円安の進行により、海外製品の仕入価格が上昇
- 不正アクセスや標的型攻撃などのサイバー攻撃の増加により、セキュリティ案件の受注活動は堅調に推移
- インバウンド需要の再開による訪日外国人の増加に伴い、宿泊施設、商業施設などから多言語通訳「みえる通訳」の引き合いが増加傾向

対前年同期で増収となるも、急激な円安進行による売上総利益率の低下、事業拡大に向けた人的資本の増強、資本業務提携に係る費用20百万円、譲渡制限付株式の精算などの組織再編に伴う諸費用46百万円の計上により減益

(百万円)	【ご参考】 2022年3月期 第3四半期 累計実績	2023年3月期 第3四半期 累計実績	前年同期比	
			増減額	増減率 (%)
売上高	3,631	3,804	173	4.8%
売上総利益	1,437	1,258	△178	△12.4%
営業利益	275	△69	△345	△125.2%
経常利益	269	△32	△302	△112.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	153	△117	△270	△177.0%
為替レート (ドル)	111.10円	136.53円		
1株当たり四半期純利益	9円42銭	△7円13銭		

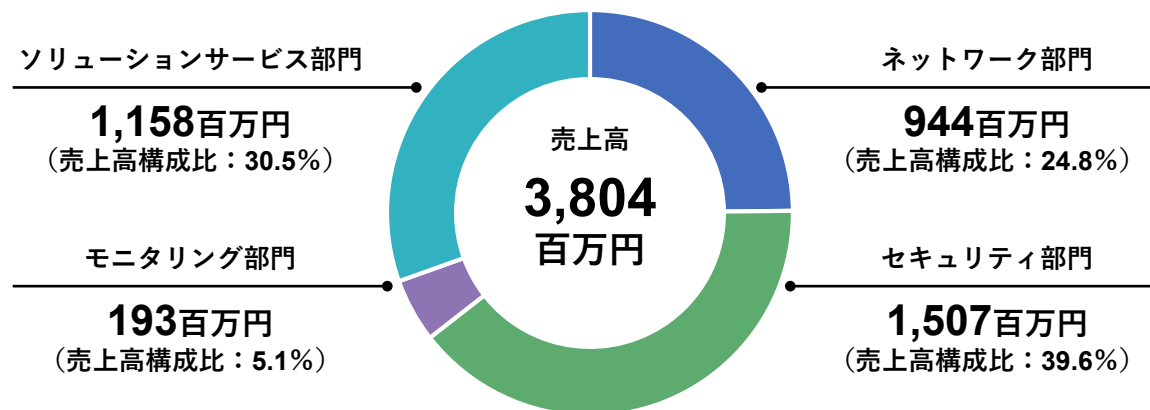
■ 売上高 ■ 営業利益 ○ 営業利益率

(百万円)



(百万円)	2022年3月期 第3四半期 累計実績	2023年3月期 第3四半期 累計実績	前年同期比	
			増減額	増減率 (%)
ネットワーク部門	1,059	944	△115	△10.9%
セキュリティ部門	1,174	1,507	333	28.4%
モニタリング部門	307	193	△113	△36.8%
ソリューションサービス部門	1,090	1,158	68	6.3%
合計	3,631	3,804	173	4.8%

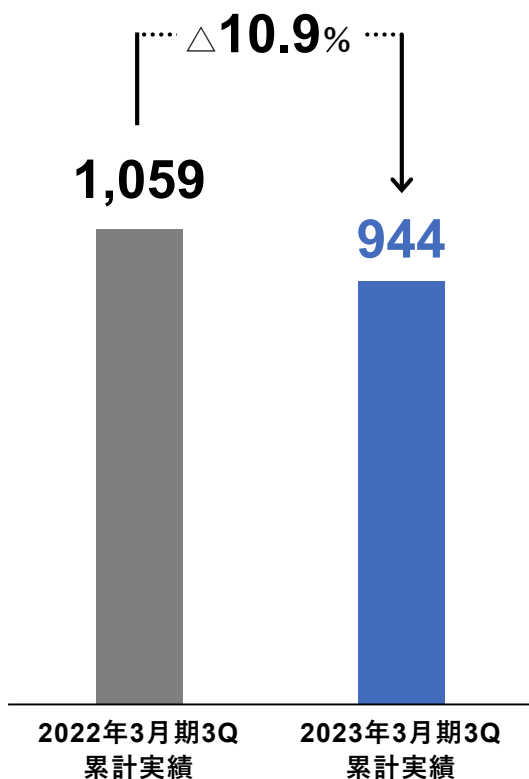
セグメント別売上高構成比



国際的スポーツイベント以降も続くDDoS攻撃や、テレワーク・在宅勤務によりひっ迫したVPN回線など、企業内ネットワークはセキュリティ対策と運用管理が課題

売上高推移

(百万円)

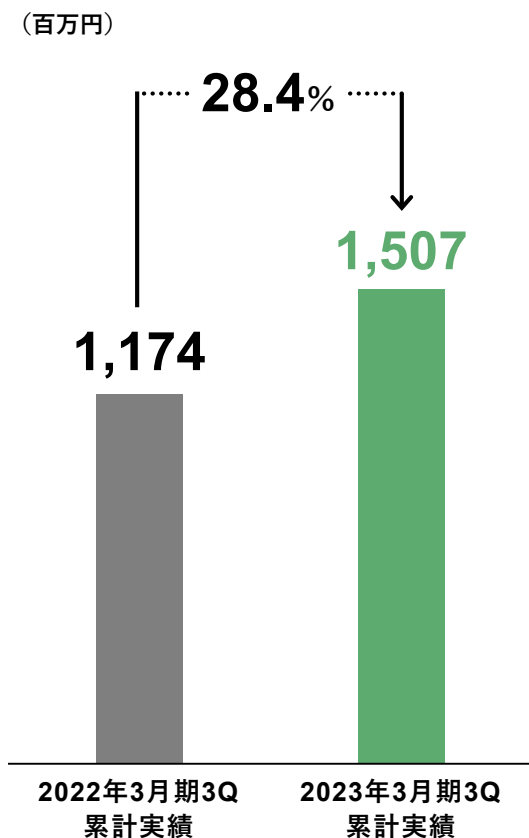


トピックス

- 国際的スポーツイベント以降も続くDDoS攻撃への対策や、テレワーク・在宅勤務によりひっ迫したVPN回線・WAN回線の負荷分散など、企業内ネットワークが抱える課題解決に向けて、DDoS対策サービスやWAN回線の負荷分散装置、Webアプリケーションの最適化などへの「Radware」製品の受注活動は堅調に推移
- テレワークやフリーアドレス制の導入に伴う企業のWi-Fi利用の拡大を背景に、セキュアなクラウド型無線LAN「Extreme Networks（旧Aerohive）」製品を採用したネットワーク構築案件の受注獲得を推進
- IPアドレス管理サーバ製品「Infoblox」製品は、新モデルへのリプレース需要が一巡。テレワーク増加に伴うセキュリティ対策の需要拡大を背景とした、DNSセキュリティソリューションの提案活動に注力。サブスクリプション・モデルによる価格形態の変更により、従来のような売上計上ができなくなった

インターネットが社会生活や経済活動に不可欠な社会インフラとして定着したことで、不正アクセスや標的型攻撃などのサイバー攻撃によるセキュリティの脅威は増加

売上高推移



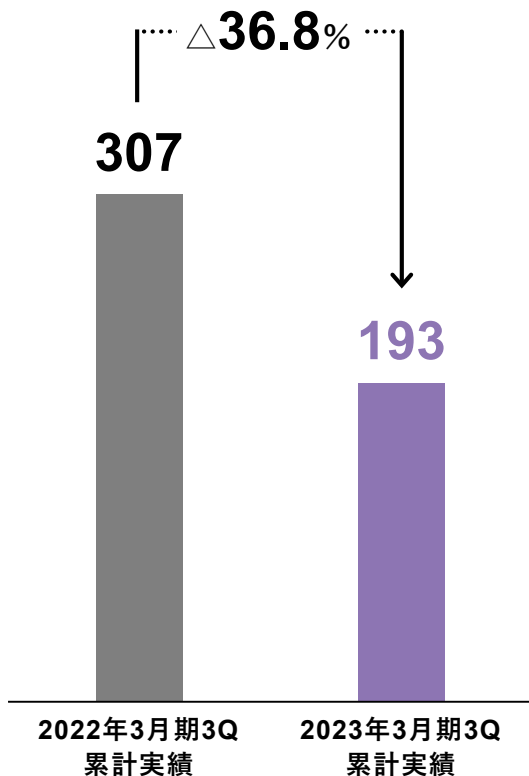
トピックス

- 電力系などの重要インフラや工場及びビル管理などの産業制御システム分野では、OT/IoTのセキュリティ対策に「Nozomi Networks」を採用した制御システム・セキュリティリスク分析案件の引き合いが増加
- 昨今のクラウド利用の加速とリモートワークの定着により、外部からのセキュリティ脅威や内部不正のリスクに晒されている中、既存システムやセキュリティツール、SaaS、PaaSなどのログ情報から脅威をいち早く正確に捉えることのできる「Sumologic」の引き合いは増加
- 特定の組織、企業などを標的にしたサイバー攻撃への対策として、官公庁、国内製造業などからネットワーク不正侵入防御セキュリティ製品「TippingPoint」を受注
- サイバー犯罪・テロに関する情報を収集・分析するサイバースレットインテリジェンスサービス、サプライチェーンのリスクを可視化する「BitSight」サイバーリスク自動評価サービスの受注活動は堅調に推移
- 犯罪に利用されるSNSをAIで分析し、犯罪グループ間の隠れた関係や裏アカウントなどを特定するサービスを本格的に開始。ソフトウェアサプライチェーンリスクのサービスの立ち上がりも順調

テレワーク・在宅勤務の急拡大により逼迫したネットワークの可視化とセキュリティリスク対策に向けて、パケットキャプチャ製品の新モデルを本格的に販売開始

売上高推移

(百万円)



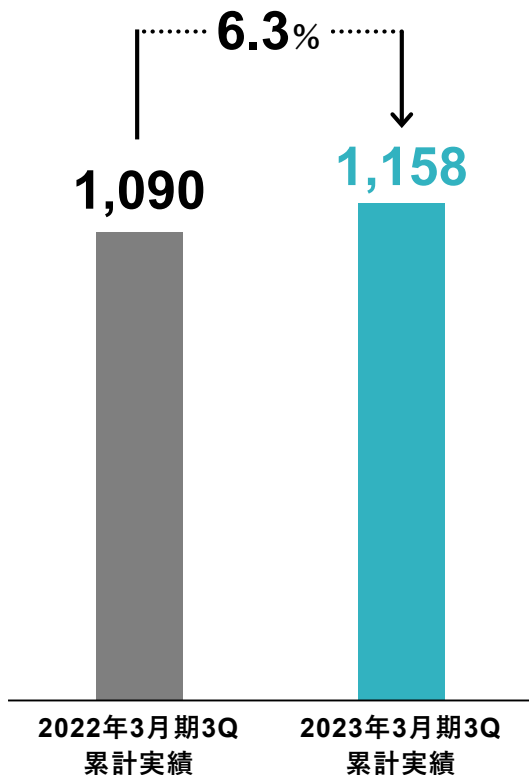
トピックス

- テレワーク・在宅勤務の急拡大によるネットワークの負荷やセキュリティリスクの高まりを背景に、当社グループ独自パケットキャプチャ新モデル「THXシリーズ」は、ネットワーク監視やセキュリティ対策、トラブルシューティング対応などの新規案件の受注獲得に注力
- 当社グループ独自の運用監視クラウドサービス「CloudTriage」は、当社グループの主要顧客を中心に、Microsoft365などのSaaSのパフォーマンスの可視化及び原因追究などの案件の受注に努める
- 長年使用されてきたレガシーな製品のサポート終了に伴い、保守サービスの売上が減少

新型コロナウイルス感染症の水際対策緩和により、多言語対応での「みえる通訳」の導入や通訳利用が増加傾向にあり、今後のインバウンド需要に明るい兆し

売上高推移

(百万円)



トピックス

- 多言語通訳の「みえる通訳」は、ワクチン接種会場及び官公庁、自治体、医療機関での利用が引き続き増加。インバウンド需要が再開し、従来の契約ユーザーである宿泊施設、商業施設、メガネショップなどでの利用も増大傾向
- Zoomの新しい利用スタイルとして「みえる通訳」を組み合わせることにより、国際会議での需要が増大
- 簡便性と導入しやすい価格帯から、クラウドPBX事業者や中小企業のネットワークサービスとして、クラウドマネージドVPNサービスの引き合いが増加
- 当社グループ開発の究極的に簡単なRPAツール「EzAvater」は、誰でも簡単に使える特徴と認知度の高まりから、業界・業種・規模を問わず利用が拡大し、契約件数は堅調に推移
- 訪日インバウンドメディアを活用したプロモーション事業のIGLOOO（イグルー）社は、インバウンド需要の再開により訪日外国人を誘客するPR需要が増加、情報システム業務支援・業務開発のクレシード社の受注活動は予定通りに推移

A short, thick black diagonal line located in the upper left quadrant of the slide.

2023年3月期 通期業績予想



第3四半期までの業績及び第4四半期の業績見込みに基づき、2023年3月期 通期業績予想を修正
売上高は8.2%増の5,650百万円、営業利益は81.9%減の80百万円の増収減益の見通し

(百万円)	【ご参考】 2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	前年同期比	
			増減額	増減率 (%)
売上高	5,223	5,650	427	8.2%
営業利益	441	80	△361	△81.9%
経常利益	439	90	△349	△79.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	273	△20	△293	△107.3%
1株当たり当期純利益	16円87銭	△1円21銭		
年間配当金	7円00銭	5円00銭		
配当性向 (連結)	41.4%	—		



[免責事項]

- 本資料は、業績の進捗状況の参考となる情報提供のみを目的としたものであり、投資等の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 本資料はできる限り細心の注意をもって作成されておりますが、その完全性についてテリロジーホールディングスは責任を負うものではありません。
- また、本資料を判断材料とした投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。
- 本資料中の予想または計画は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は経済情勢等今後様々な要因によって予想または計画数値と異なる場合があります。

【お問い合わせ先】

広報・IR担当
TEL:03-3237-3437
E-mail : ir@terilogy.com